

「落葉松（からまつ）」定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

落葉松

一

からまつは 林を過ぎて、
からまつを しみじみと見き。
からまつは さびしかりけり。
たびゆくは さびしかりけり。

二

からまつは 林を出でて、
からまつは 林に入りぬ。
からまつは 林に入りて、
また細く 道はつづけり。

三

からまつは 林の奥も
わが通る 道はありけり。
霧雨きりさめの かかる道なり。
山風の あかよふ道なり。

四

からまつは 林の道は
(B) われのみか、ひとまかよひぬ。
ほそぼそと 通ふ道なり。
さびさびと いそぐ道なり。



五

からまつの 林を過ぎて、
bゆゑしらず 歩みひそめつ。
からまつは さびしかりけり、
からまつと ささやきにけり。

六

からまつ 林を出でて、
浅間嶺あさまねに けぶり立つ見つ。
浅間嶺に けぶり立つ見つ。
からまつ cそのうへに。

七

からまつ 林の雨は
さびしけど いよいよdしづけし。
「 A 」鳥 鳴けるのみなる。
からまつ 濡ぬるのみなる。

八

世の中よ、eあはれなりけり。
常なけど うれしかりけり。
山川やまがはに 山がはの音、
からまつに からまつのかぜ。

問1 「落葉松」の作者を漢字で書きなさい。



問2 問1の人物の【活躍した時代】と、【代表作】を次の中からそれぞれ選び○で囲みなさい。

【活躍した時代】

- ア：明治
- イ：明治～大正
- ウ：大正～昭和
- エ：明治～昭和
- オ：大正
- カ：昭和

【代表作】

- サ：「坊っちゃん」
- シ：「車輪の下」
- ス：「思ひ出」
- セ：「たけくらべ」
- ソ：「羅生門」

【活躍した時代】

【代表作】

問3 「落葉松」は、なんという形式の詩か、漢字5字で書きなさい。

問4 「落葉松」は、5音と7音の順番で繰り返す形式が使われているが、このような形式をなんというか、漢字3字で書きなさい。

問5 本文にある下線【a】・【b】・【c】・【d】・【e】の言葉それぞれを、現代仮名遣いに直して書きなさい。

- | | | |
|-----|-----|-----|
| 【a】 | 【b】 | 【c】 |
| 【d】 | 【e】 | |



問6 本文にある下線a・b・c・d・eの言葉に使われているような仮名遣いを、なんと
いうか、「○○○仮名遣い」の○に当てはまる言葉を漢字3字で書きなさい。

問7 本文の「A」に入る、鳥の名前である言葉を書きなさい。

問8 問7の鳥の名前がもつイメージが、「落葉松」の詩の内容のどんなイメージに合う
かを説明している次の選択肢の中から、最も適切なものを選び○で囲みなさい。
※適切でない選択肢には、鳥の名前がもつ本来のイメージではないものも使われて
います。

ア：くりかえす鳴き方のイメージが、落葉松の林がくりかえし出てくる情景に
合っている。

イ：ずっと鳴き続けるイメージが、落葉松の林の道がずっと続く情景に合っている。

ウ：せつない鳴き声のイメージが、落葉松の林の道が寂しい情景に合っている。

エ：雨の日にあらわれる鳥のイメージが、落葉松の林に雨が降っている情景に
合っている。

問9 「落葉松」の第三連「霧雨のかかる道なり」「山風のかよふ道なり」には、
どんな表現技法が使われているか。漢字で答えなさい。

問10 「落葉松」の第六連「浅間嶺にけぶり立つ見つ」「浅間嶺にけぶり立つ見つ」
には、どんな表現技法が使われているか。漢字で答えなさい。

問11 「落葉松」の第六連「浅間嶺にけぶり立つ見つ」「からまつのまたその
うへに」には、どんな表現技法が使われているか。漢字で答えなさい。

問12 「落葉松」の第八連「山川に山がはの音」「からまつにからまつのかぜ」
には、どんな表現技法が使われているか答えなさい。



問13 本文下線部B「われのみか、ひともかよひぬ」とは、どのような意味か、最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：自分以外、誰も通らない
- イ：昔は通っていたが、今は誰も通らない
- ウ：自分だけでなく、他にも人が通った
- エ：人が通ることができない

問14 「落葉松」の第四連「われのみか ひともかよひぬ」とあるが、「われ」は何をしている状況なのか、状況を最も表している本文の一行を書き抜きなさい。

問15 「落葉松」の第五連「ゆゑしらず 歩みひそめつ」の意味として最も適切なものを、次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：なぜ歩いてしまうのかわからない
- イ：理由もなくそっと歩いた
- ウ：歩いた理由は秘密にしたので、誰も知らない
- エ：理由がなかったので、歩けなかった

問16 「落葉松」の連の中で、作者が最も伝えたい「主題」が書かれているものは第何連か答えなさい。

問17 「落葉松」で、作者が最も伝えたい「主題」の内容として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：人の世は孤独だが、自然は味わい深く、楽しみを与えてくれる
- イ：人は常に孤独で、落葉松の林の道のように寂しい
- ウ：世の中というのは、悲しいことが多いが、時々嬉しいこともある
- エ：人というのは寂しいもので、可哀想である。しかし、そんな人々の世にも、嬉しいことはあったのだ



「落葉松（からまつ）」定期テスト対策練習問題（解答）

問1 北原白秋

問2 【活躍した時代】エ

【代表作】ス

【解説】北原白秋は、明治・大正・昭和と三代で活躍した詩人・歌人。

代表作は「邪宗門」「思ひ出」などの詩集、「桐の花」「雲母集」などの歌集がある。

「坊っちゃん」は夏目漱石、「車輪の下」はヘルマン・ヘッセ、「たけくらべ」は樋口一葉、「羅生門」は芥川龍之介の作品。

問3 文語定型詩

【解説】「落葉松」は、「さびしかりけり」のように昔の書き言葉で書かれているため、文語である。また、「5音」+「7音」でくりかえされているように、定型詩である。

問4 五七調

問5 【a】「かよう」 【b】「ゆえしらず」 【c】「そのうえ」

【d】「しずけし」 【e】「あわれ」

問6 歴史的

問7 かんこ（鳥）

問8 ウ



問 9 対句法

問 10 反復法

問 11 倒置法

問 12 体言止め

問 13 ウ

【解説】「かよひぬ（通ひぬ）」は、現代仮名遣いに直すと「通ひぬ」。「ぬ」は完了の終止形なので、「通った」という意味。

問 14 「たびゆくは さびしかりけり」（スペースはなくても良い）

【解説】「落葉松」は、北原白秋が長野県軽井沢に宿泊していた際、宿近くの落葉松林を散歩していたときの情景について書いた作品。

問 15 イ

問 16 第八連

問 17 ア

※当テストでは、著作権侵害を避けるために本文の掲載を控えています。

問題・解答の内容が本文のどこにあるのかを示すために、段落と教科書に掲載されているページ上の行数を表記しています。

